

想像しましよう。

Image.

Image. Fukushima

【イメージ. フクシマ】

2011.8.10 WED—14 SUN

フォーラム福島

【トークゲスト】

玄侑宗久

大宮浩一

佐藤栄佐久

開沼博

鎌仲ひとみ

石田葉月

渡部義弘

吉野裕之

安斎伸也

【上映作品】
ヒバクシャ—世界の終わりに

六ヶ所村ラブソディー

ミツバチの羽音と地球の回転

原発切抜帖

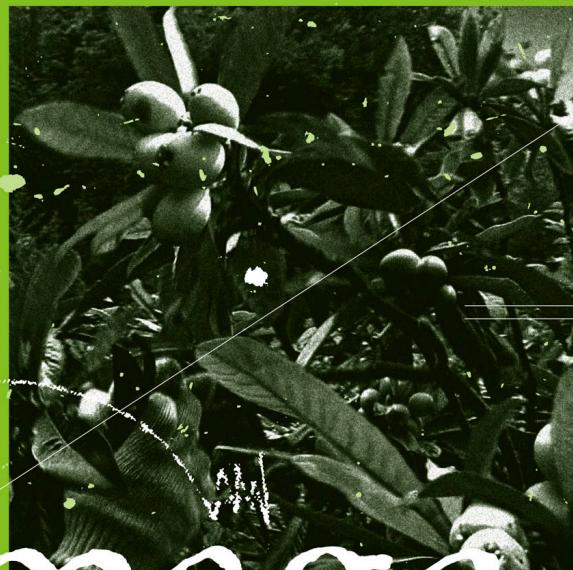
海賊り—下北半島・浜間根

無常素描

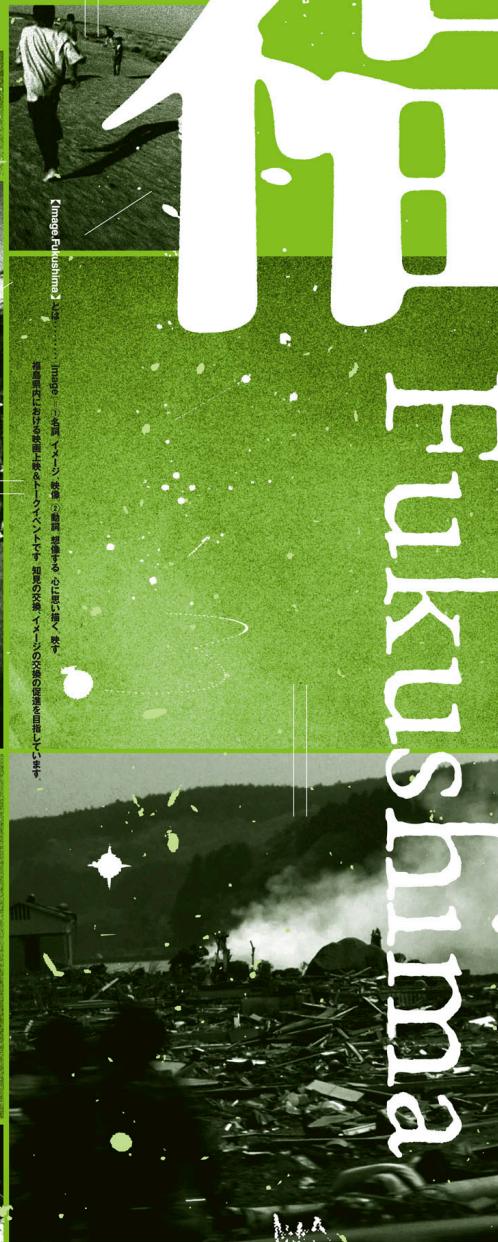
生きていてよかった

鳩ははばたく

監修: 岩井一郎
撮影: 鈴木一郎



vol. I



<http://www.image-fukushima.com>

福島の現在・過去・未来をイメージするための
ドキュメンタリー映画8本+ゲストトーク

福島

島

フォーラム 福島



3月11日の地震と津波、そして福島第一原子力発電所事故の後、福島は収束の目処のつかない困難と混沌の中にあります。

“見えない”放射能汚染は、その得体の知れなさによってより一層、私たちの生活を脅かし、心を引き裂いています。

「福島」は見る人によって全く異なる姿に映り、そのため孤立と沈黙が生まれています。

想像しましょう。いくつもの視点から見られたいくつもの「福島」を。それぞれのイメージを交換しましょう。

「福島」の現在について、過去について、未来について、心に思い描きましょう。

イメージとイメージを線で結び、「福島」と似た様々な土地の記憶を呼び出しましょう。

広島、長崎、六ヶ所村、浜三崎、水俣、四日市、祝島、イラク、ハンフォード……。

それぞれの持ち場で、逆境に立ち向かっている人々と繋がりましょう。

福島から未来に向けて、共にメッセージを送りましょう。——Image.Fukushima実行委員会

福島の現在・過去・未来をイメージするためのドキュメンタリー映画8本+ゲストトーク

上映作品 解説



ヒバクシャ——世界の終わりに

2003年 VIDEO カラー 116分 グループ現代 謙伸ひとみ監督作品

目に見えず、感じることのできない放射能汚染の脅威。米軍が残した劣化弾薬弾がいまも子どもたちを責めいなむイラク、アメリカの核施設の街ハンフォード、「内部被曝」のスペシャリストである広島の医師、肥田寿太郎医師の協力のもと、その驚くべき現実に迫る。放射線の影響は無いと主張する住民と、有ると主張する住民——“見えない”対立で引き裂かれたハンフォードからいま学ぶべきことはきわめて多い。



六ヶ所村ラブソディー

2006年 VIDEO カラー 119分 グループ現代 謙伸ひとみ監督作品

2004年、全国で54基ある原子力発電所の放射能廃棄物からブロックを取出す一大国際プロジェクトとして、青森県上北郡六ヶ所村に再処理工場が完成する。住民のほとんどはすでに施設を受け入れていたが、そこに潜む矛盾にこだわり、土地の豊かな自然を守るために反対運動を続ける人々とも戦っていた。チューイップを栽培する農家の菊川さんや有機農家の苦木地さんなど、「その人に」共感する謙伸人の間味あふれる眼差しが感動を呼ぶ。



ミツバチの羽音と地球の回転

2010年 HD カラー 135分 グループ現代 謙伸ひとみ監督作品

25年間にわたり、中部電力による原子力発電所増設計画に反対している山口県祝島の住民たち。彼らは千年間にわたり希少な生物たちや自然と共に暮らしてきた一方で、地域自治と地域自立型のエネルギー政策を実現しているスウェーデン。彼らは持続可能な社会を構想し、電力自由化を実現していく。ふたつの土地を往復しながら、私たちは可能な未来を映し出す、希望の映画。



海盗 下北半島・浜岡根

1984年 16mm カラー 103分 シグロ 土本典昭監督作品

1981年、青森県下北半島の浜岡根。原子力船「むつ」の母港化計画が持ち上がる。「海を売るのか、知らないのか?」国策を買入れれば何は發展し生活が一変すると信じる者。漁民の文化と生活を守らうとする者。思惑が々々に乱れるなか、序々に海は奪われていく……。土地に息づく顔と声を、情に溺れてかんばらず、ただひたすら誠実に提えようとする主人公叙事詩の真骨頂。もちろん津軽歌に「字幕はない」そもそも見られるべき映像作品のこと。



原発切抜帖

1982年 16mm カラー 45分 シグロ 土本典昭監督作品

世界で唯一の被爆国だった日本が、どのようにして原子力大国へと変貌をしたのか。わが国の原発政策の在り方を、新聞から切り取った膨大なカラフル記事だけを使って見事に浮かび上がらせた世界的な類例のみならぬ実験作。原子力をめぐる常識・非常識を私たちどのように受け入れ、また、何を見落としてきたか。小沢昭一が読み上げる軽妙なナレーションとともに、土本の批判精神がいかんなく發揮される。



無常素描

2011年 HD カラー 75分 大宮浩一監督作品

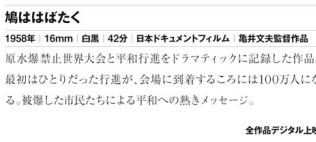
大地搖れ、津波の跡、東日本大地震発生から一ヶ月あまり——。誰でも地名も、人の名も付すことのない「痕」が未曽有の出来事の跡を、決して「情報」に還元することなく、スクリーンに大きな瞬いで映しゆく。震災後、最も早く製作・公開されて多くの話題を呼んだドキュメンタリー。取材に赴いた福島県三春町の僧侶、玄栄宗久の言葉とともに、私たちの文明は何だったのか、これから何に向かうべきかという巨大な問いが浮かび上がる。



生きていてよかった

1956年 16mm 白黒 48分 日本ドキュメントフィルム 亀井文夫監督作品

同じ悲劇を繰り返さぬために——從来の常識を覆す大胆なアリスムで描かれた原爆の爪痕の記録。助け合いながら困難に立ち向かった広島・長崎市民は最後に確認する——「生きていてよかった」。平和文化賞受賞作。



全作品デジタル上映

監修 プロフィール



謙伸ひとみ
Hiromi KANANAKA

宮城県出身。フリーの映像作家として岩波映画製作所、NHKで番組を制作。「戦闘にまみれた子供たちは——湾岸戦争の年のラリーの収穫をかけにテレビの戦争を見て飛んで、自主的な映画制作と上陸運用を展開。日本と世界各地の環境問題の歴史線を取材し、専門的な活動家たちに寄り添いながら、世に先んじて放射能汚染の実状を訴え、警鐘を鳴らし続けてきた。現在もっとも脚光を浴びるオピニオン、リーダー。



土本典昭
Toshiaki TSUCHIMOTO

1928年生まれ(~2008年)。日本最大の記録映像作家。ライフルワークであった一連の「水俣映画」、そして原発問題の深奥に迫る「海賊」等の傑作群は、社会問題に対する批判・監視の役割を果たしてきましたが、いまもまた「色揚げ」をめざし、地域に生きる人々の高さ、その生活のかけがえのなさをイメージとして保存し続ける。時代に切り込むその姿勢は、謙伸ひとみ監督に伝承されており、「六ヶ所村ラブソディー」は「海賊」の継続として見ることもできる。



大宮浩一
Koichi OMURA

1958年生まれ。映画監督・企画・プロデューサー。93年、有限会社 大宮映像製作所を設立し、山本政志監督作「JUNK FOOD」(98)などの意欲作を発表。2010年、介護の現場を記録した「たたひま」。それぞれの現場所を企画・製作・監督し、平成22年文化庁映画文化記録映画大賞を受賞。若い介護スタッフたちの戦いを記録した「9月11日」も好評を博す。ひとが生きそして死ぬ場所の現実を真摯に見つめ、いまも注目されるドキュメンタリストのひとり。



亀井文夫
Fumio KAMEI

1908年福島県原町市(現・南相馬市)生まれ(~1987年)。日本の文化・記録映画に大きな足跡を残した巨匠。1929年に「ピエトヘ」で渡り、最新の映画技術を吸収して帰国。1959年の「戦う兵隊」は反戦的として上映禁止処分を受け、亀井自身も一年間投獄された。以後、劇映画とドキュメンタリーのジャンルを越えて気骨溢れる問題作を次々と発表。広島の原爆問題を通して、人間が生きる環境の問題に着目。エコロジー運動の偉大な先駆者である。

料金 入場料金=1,200円(一律1作品ごと) トーク付上映の回=1,500円

●当日券のみ ●予約不可 ●上映当日の正午よりその日の全ての整理券を配布します

開場は上映開始10分前より整理番号順にご入場いただきます。

お問い合わせ

image.fukushima@gmail.com ☎ 03-5155-4362 合同会社東風内

上映期間中は、劇場まで直接ご連絡ください。☎ 024-533-1717 (フォーラム福島)

会員情報
FORUM 5(132席)

〒960-8051 福島市西桜町6-4

☎ 024-533-1717

http://www.forum-movie.net/fukushima

アクセス

JR東北新幹線・東北本線 福島駅(東口)より徒歩10分



vol.I
Image.
Fukushima
2011.8.10 WED—14 SUN フォーラム福島

主催 Image.Fukushima実行委員会

共催 東風

協力 グループ現代 シグロ 日本ドキュメント・フィルム

[Image.Fukushima]とは…[image]=①名詞 イメージ、映像 ②動詞 想像する、心に思ふ、描く、映す。[Image.Fukushima]は、福島県内における映画上映&トークイベントです。知見の交換、イメージの交換の促進を目指しています。福島県内の映像制作も応援しています。第二回以降のテーマとして、「訴訟」、「健康とケア」、「環境」、「故郷」などを準備中。運営のための賛助会員を随時募集しています。

Image.Fukushima実行委員会：三浦哲哉(会長) / 伊藤勝(副会長) / 渡辺祐一 / 吉川正文 / 鈴木麻美 / 長沢洋文 / 石川多摩川 / 佐藤理美 / 内沼宏大 / 小菅佳津子 / 関博 / 岩崎孝正 / 萩井重秋 / 野亮 / 成瀬翠 / 寺岡ユウジ

事務局

東京：〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-42-11 カーサ新宿705 合同会社東風内
福島：〒960-8074 福島市西中央3丁目30-1 ラボール西中央101

http://www.image-fukushima.com

トークゲスト

玄栄宗久 | Soky GENYU

8月10日(水)

1956年生まれ。福島県三春町出身。福聚寺住職。小説家。著書に『中庭の花』(芥川賞)ほか、東日本大震災復興構想会議委員。

大宮浩一 | Koichi OMURA

8月10日(水)

●監督プロフィール参照

佐藤栄佐久 | Eisaku SATO

8月11日(木)

1939年生まれ。福島県郡山市出身。1988年から2006年まで福島県知事を務める。地方自立を目指して「闇う知事」の異名を取る。著書に『知事抹殺』『福島原発の真実』。

開沼博 | Hiroshi KAINUMA

8月11日(木)

1984年生まれ。福島県いわき市出身。東京大学大学院学際情報学博士課程在籍。社会学専攻。著書に『「フクシマ」論 原子力ムラはなぜ生まれたのか』(青土社)。

鎌仲ひとみ | Hitomi KAMANAKA

8月12日(金)

●監督プロフィール参照

石田葉月 | Hazuki ISHIDA

8月13日(土)

1968年生まれ。愛知県出身。福島大学共生システム理工学類准教授。福島大学原発災害支援フォーラムメンバー。著書に『持続型社会は近づいたか』。

渡部義弘 | Yoshihiro WATANABE

8月13日(土)

1970年生まれ(太陽の塔と同じ年)。福島県郡山市出身。福島県立相馬高等学校教諭(国語科)。

吉野裕之 | Hiroyuki YOSHINO

8月14日(日)

1966年生まれ。福島県福島市田町出身。子どもたちを放射線から守る福島ネットワークで「避難・隣保・保健班」の世話を務める。

安斎伸也 | Shinya ANZA

8月14日(日)

福島市出身の「あんざい果樹園」4代目。2008年より自然栽培の試行錯誤を開始。現在は新たな耕作地を求めて、家族4人で北海道に移住。

敬称略

- トーク付上映の回は大変込み合ふ恐れがありますので、整理券を必ずお求めください。
- トークは各日最初の上映後に行われます。トークのみの入場はご遠慮ください。
- トーク終了時刻はあくまで予定となります。
- ゲストはやむをえず変更される場合があります。事前にホームページ等でご確認ください。

上映スケジュール

8月10日(水)

13:50-15:50 ヒバクシャ——世界の終わりに

16:00-18:20 ミツバチの羽音と地球の回転

18:30-20:45 原発切抜帖+トーク:佐藤栄佐久×開沼博

8月11日(木)

13:50-16:10 ミツバチの羽音と地球の回転

16:20-18:20 ヒバクシャ——世界の終わりに

18:30-20:30 原発切抜帖+トーク:玄栄宗久×大宮浩一

8月12日(金)

14:00-15:30 生きていてよかった+鶴ははばたく

15:45-17:50 六ヶ所村ラブソディー

18:00-21:30 ミツバチの羽音と地球の回転+トーク:謙伸ひとみ

8月13日(土)

13:00-15:00 海盗 下北半島・浜岡根

15:15-17:20 六ヶ所村ラブソディー

17:30-21:00 ミツバチの羽音と地球の回転+トーク:渡部義弘×石田葉月

8月14日(日)

13:40-15:00 無常素描

15:15-17:20 六ヶ所村ラブソディー

17:30-21:00 ミツバチの羽音と地球の回転+トーク:吉野裕之×安斎伸也